

家の紋、瓶子、

〔寛永諸家系圖傳 百四十四〕永井

家の紋、井桁、

長井 家の紋、十六のむさし、

〔安齋隨筆 前編八〕一景清家紋

尾張國海東郡馬嶋村明眼院に白山神社あり、社内に古き鎧あり、

相傳て悪七兵衛景清が鎧也といふ、其鎧の圖を尾張の人持たるを乞て寫しぬ、其鎧に車輪の紋

の金物あり、其後或人の談しは、信濃國に景清の建立したりし古寺あり、堂に車輪の紋付たる金

ものありといふ、此事寺を見し人に直に聞かず、人傳に聞し事なれば、郡村の名も寺の名も委し

く尋られず、詳ならず、されども景清が紋車輪にてある事は、彼鎧の紋に符合せり、

〔寛永諸家系圖傳 百十三〕知久

祐起 家傳にいはいく、室町將軍家の君達之義より、錦の母衣ならびに旗をたまはる、書狀これあり、彼

旗の紋車輪、これによりて家の紋とす、

〔寛永諸家系圖傳 百九十三〕佐藤

家紋、片輪車、或は傘、

〔寛永諸家系圖傳 二百八十七〕榊原

家紋、車、

〔安齋隨筆 後編十四〕一保田家の紋、おほすながしと云、其形略 如此、是は蛇籠のくひ計付るなり、

古は略 中、まやかごに、くひを打し形を附しなり、

〔寛永諸家系圖傳 二百九十四〕春日